

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

実用新案登録第3201846号
(U3201846)

(45) 発行日 平成28年1月7日 (2016.1.7)

(24) 登録日 平成27年12月9日 (2015.12.9)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 5 D 44/00 (2006.01)

A 4 5 D 44/00

B

A 4 1 G 5/02 (2006.01)

A 4 1 G 5/02

評価書の請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 5 頁)

(21) 出願番号 実願2015-5267 (U2015-5267)
(22) 出願日 平成27年10月19日 (2015.10.19)(73) 実用新案権者 715009798
新井 好
京都府京都市下京区西七条東御前田町 1 3
番地 シャリマー五条 705号
(72) 考案者 新井 好
京都府京都市下京区西七条東御前田町 1 3
シャリマー五条 705

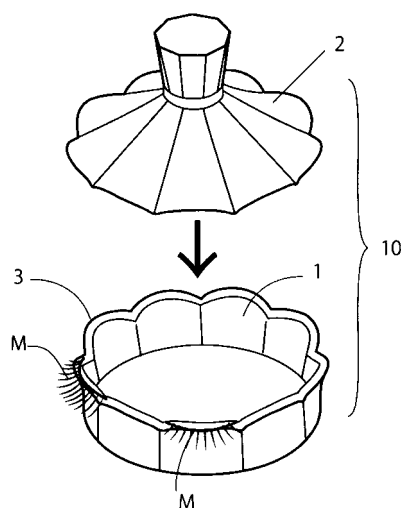
(54) 【考案の名称】 つけまつげ保管容器

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 瞼にあった形状を維持しながら保管ができ、メンテナンスもできる付けまつげ保管容器を提供する。

【解決手段】 付けまつげ保管容器 10 は、略筒状の外周部を有し、内部に付けまつげ M を収納することのできる空間を備えた容器 1 と、容器に被せる蓋 2 とを備え、容器の外周部上縁には、瞼の曲面に沿った形状の湾曲面 3 が複数形成され、蓋の下面には、この湾曲面に密着する曲面が形成されている。

【選択図】 図 2



【実用新案登録請求の範囲】**【請求項 1】**

略筒状の外周部を有し内部に付けまつげを収納することのできる空間を備えた容器と、前記容器に被せる蓋とを備え、前記外周部の上縁には、脛の曲面に沿った形状の湾曲面が複数形成され、前記蓋の下面には、前記湾曲面に密着する曲面が形成されていることを特徴とする付けまつげ保管容器。

【請求項 2】

前記容器は、平面視が梅花に似た形状であることを特徴とする請求項 1 に記載の付けまつげ保管容器。

【請求項 3】

前記容器又は前記蓋の内側には、容器内に収納された付けまつげの根元部分を保持する保持皿が設けられ、該保持皿には、前記湾曲面と同一形状の湾曲面が形成されていることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の付けまつげ保管容器。

【請求項 4】

前記湾曲面の厚みは、前記付けまつげの根元部分のみを保持することのできる幅に形成されていることを特徴とする請求項 1 ～ 3 の何れかに記載の付けまつげ保管容器。

【考案の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本考案は、付けまつげを保管する容器に関する。

【背景技術】**【0002】**

従来、付けまつげを収納、保管するケースとしては、下記特許文献に記載のものが知られている。

【先行技術文献】**【特許文献】****【0003】**

【特許文献 1】登録実用新案第3043843号公報

【特許文献 2】登録実用新案第3157680号公報

【特許文献 3】特開2008-161646号公報

【特許文献 4】特許第4542622号公報

【考案の概要】**【考案が解決しようとする課題】****【0004】**

しかしながら、これらの収納ケースは、付けまつげを粘着剤で仮止めした状態で収納するもので、そのままでは、次第に形状が崩れ、それを装着するときは、脛に合わないことがある。そのため、手入れが必要になるが、その手入れも、付けまつげを手にとって行うことになるから、ドライヤーを使用して癖を修正することができない問題があった。

【0005】

本考案は上記の問題を解決するもので、脛にあった形状を維持しながら保管ができ、メンテナンスもできる新たな付けまつげ保管容器を提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】**【0006】**

本考案に係る付けまつげ保管容器は、略筒状の外周部を有し、内部に付けまつげを収納することのできる空間を備えた容器と、前記容器に被せる蓋とを備え、前記外周部の上縁には、脛の曲面に沿った形状の湾曲面が複数形成され、前記蓋の下面には、前記湾曲面に密着する曲面が形成されていることを特徴とする。

【0007】

使用に際しては、前記湾曲面と前記蓋の曲面との間に、付けまつげの根元のみを上下か

10

20

30

40

50

ら挟んで保持する。これにより、付けまつげは、瞼に装着されるときに形状を維持したまま、付けまつげの根元部分が容器と蓋との間で保持されるから、保管時にその形状が崩れないメリットがある。

【 0 0 0 8 】

また、前記容器は、平面視が梅花に似た形状であることを特徴とする。

【 0 0 0 9 】

これにより、隆起した容器外周部から付けまつげの毛先部分だけを出した状態で、その根元部分を容器と蓋とで保持することができるから、容器の外周から飛び出た毛先部分を何時でも簡単に手入れすることができる。

【 0 0 1 0 】

また、前記容器又は前記蓋の内側には、容器内に収納された付けまつげの根元部分を保持する保持皿が設けられ、該保持皿には、前記湾曲面と同一形状の湾曲面が形成されていることを特徴とする。

【 0 0 1 1 】

これにより、付けまつげの保管容器を持ち歩くときは、付けまつげを保持皿に仮止めした状態で、付けまつげを容器内に完全に収納することができるから、付けまつげを傷めずに持ち歩くことができる。

【 考案の効果 】

【 0 0 1 2 】

本考案は、付けまつげの根元を、容器外周部の湾曲状の上縁と蓋との間に上下から挟み込んで保持するから、瞼に付けたときと同じ状態で付けまつげを保管することができる。したがって、付けまつげの形状が崩れないから、いつでも簡単に装着することができる。

【 0 0 1 3 】

また、付けまつげの毛先部分を容器の外側に出した状態で保管することができるから、付けまつげを手入れしたり、種々の装飾を施したりするときに、作業がし易くなる。

【 0 0 1 4 】

さらに、容器内の保持皿に付けまつげを保持させた状態で付けまつげ全体を容器内に収納することができるので、容器を持ち歩くときでも、付けまつげの毛先部分を傷付けない効果がある。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 1 5 】

【 図 1 】 本考案に係る付けまつげ保管容器の一実施形態の断面図

【 図 2 】 上記実施形態の容器に蓋を被せるときの外観斜視図。

【 図 3 】 付けまつげを手入れしている状態の外観斜視図。

【 図 4 】 上記蓋を逆さにした状態の外観斜視図。

【 考案を実施するための形態 】

【 0 0 1 6 】

以下、図面に基づいて本考案に係る付けまつげ保管容器の一実施形態を説明する。

【 0 0 1 7 】

図 1 ~ 図 4 において、付けまつげ保管容器 10 は、高温に耐えるポリカーボネート、アクリル樹脂等から成形されており、平面視が梅花状の容器 1 と、その容器 1 に被せる蓋 2 とを備えている。

【 0 0 1 8 】

容器 1 は、水平方向に隆起を繰り返す略筒状の外周部を有し、内部には、付けまつげ M を複数収納することのできる空間が形成されている。また、容器 1 の外周部上縁には、付けまつげ M を瞼に付けるときの曲面に沿った形状の湾曲面 3 が等間隔に複数形成され、蓋 2 の下面には、各湾曲面 3 と密着する曲面 4 が同数形成されている。したがって、蓋 2 の各曲面 4 は、容器 1 のどの湾曲面 3 とともに上下に密着するようになっている。

【 0 0 1 9 】

また、各湾曲面 3 の水平方向の厚みは、付けまつげ M の根元部分のみを保持することので

10

20

30

40

50

きる幅に形成されている。したがって、付けまつげMの毛先部分を外に向け、根元部分を湾曲面3上に載せ、その上から蓋2を被せれば、付けまつげMの根元部分のみが容器1と蓋2とで上下に挟まれるようになっている。

【0020】

使用に際しては、付けまつげMの毛先部分を外に向け、根元部分を容器1の湾曲面3に載せ、その上から蓋2を被せて、付けまつげMの根元部分を上下に挟む。すると、付けまつげMは、毛先部分が容器1から出た状態で固定されるから、それを放置しておいても、型崩れはしないし、それを使用するときも、瞼に沿った形状に保持されているから、楽に装着することができる。

【0021】

図4は、蓋2の内側に取り付けられた保持皿5を示す。この保持皿5の周縁も、前記湾曲面3と同じ形状の湾曲面30が形成されている。そして、容器1を持ち運ぶときは、容器1の湾曲面3に保持されていた付けまつげMを保持皿5の湾曲面30に付け換える。すると、付けまつげMのすべては、容器1内に収納されるから、付けまつげMを傷付けずに保管容器10を持ち運ぶことができる。

【0022】

なお、図4では、蓋2の内側に保持皿5を取り付けているが、これを容器1側に取り付けても良い。この保持皿5は、蓋2又は容器1に一体化することもできれば、着脱可能に嵌め合い式に取り付けても良い。また、容器1にお湯を溜め、そこに付けまつげMを漬けて、メンテナンスすることもできる。

【0023】

以上、本考案の一実施形態を説明したが、本考案は、これに限定されるものではなく、他の構成も採用可能である。例えば、上記実施形態では、容器の外周部が部分的に隆起する平面視梅花形の容器としたが、これに代えて、容器外周部の一部が内側に隆起する外周部とし、外側に隆起した外周部には、上記実施形態と同様、付けまつげMの毛先部分を容器の外側に向けて保持し、内側に隆起した外周部には、付けまつげMの毛先部分を容器の内側に向けて、すなわち、根元部分を外に向けて保持するようにしても良い。このようにすれば、毛先部分を外に向けた側では、毛先部分の手入れを行い、根元部分を外に向けた側では、根元部分に接着剤を塗布する等の手入れを行うことができる。この場合には、蓋の形状も容器の形状に合わせておくことは、当然である。

【符号の説明】

【0024】

- | | |
|----|------|
| 1 | 容器 |
| 2 | 蓋 |
| 3 | 湾曲面 |
| 4 | 曲面 |
| 5 | 保持皿 |
| 10 | 保管容器 |
| 30 | 湾曲面 |

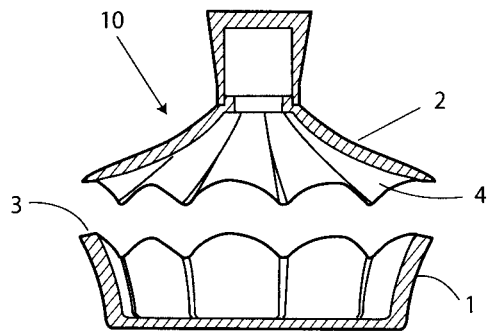
10

20

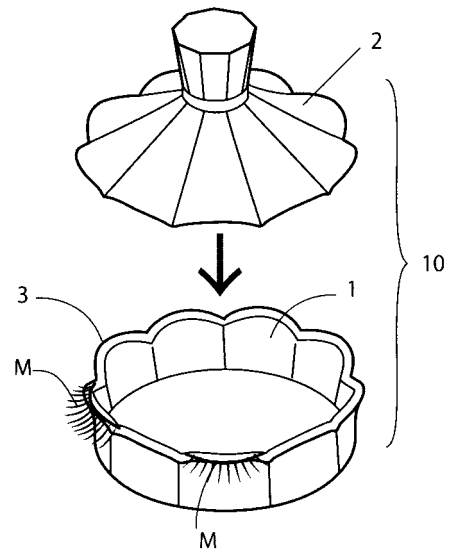
30

40

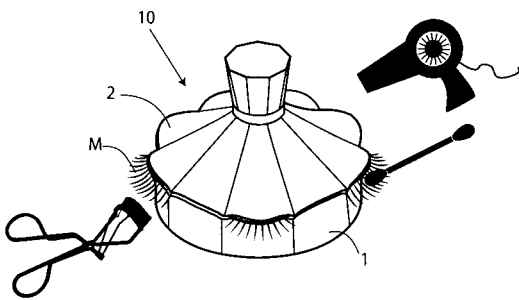
【 図 1 】



【 図 2 】



【 図 3 】



【 図 4 】

